

野の花館だより

2006/夏号 / No.40

爽やかな初夏の風を感じたのは昨日がやっと…今日もう1日もってくれるといいのですが…いかにも異常気象を感じさせるこの頃の気候ではあります。奄美大島は入梅したそうですが、宮崎はまだ暫くあるのでしょうか…でも昨日今日はまったく梅雨の晴れ間といった感じです。明日は又雨になるそうですし…連休の始まりだった野の花館まつり(4月29日)天候はやっと持った感じで丁度「語りの会」を始めるのに皆さんを館内へご案内した頃ポツポツふりだし、大慌てでテントの片づけをしたことでした。(くわしくは2ページ参照)皆さんお変わりありませんか?5月14日に第7期定例総会を終え、新年度が出発しました。季節に1度の舞台公演を丁寧に取り組みたいと思っています。毎月2回の野の花文庫も子供達とのつながりを大事にぼちぼち呼びかけを…と思っています。今年度2回目の企画は今こそ真剣に平和の問題を考えなくては…とあせる気持ちで今年は野の花館6回目の(花いちもんめ)…二人の会の濱崎けい子さんがライフワークにされているこの作品、日本の近代史を視続けてきたこの館で演じてこそ訴える力が大きいように感じます。ココに描かれる満州の開拓村の名が「高千穂村」、おきざりにされる女の子の名前が「なでしこ」…というのにも何かしらご縁を感じています。前回の公演で観ていただいた方々がその迫力に驚かれ、(お裏参照)多くの感想をいただきました。まだまだご覧になっていない方も多いと思います。是非1度野の花館での(花いちもんめ)を観ていただきたいと願っています。

野の花館・平和を考える集い・2006

宮本研・作

1幕

花いちもんめ

中国ハルピンで、戦争のために家族がばらばらになってしまった母親と姉弟のお話。戦争体験を伝える…

伝え続けたい あの惨劇を！！

忘れてはいけないあの戦争を…！！

地球上のどこかで戦禍が続く昨今、もう半世紀以上も前のことになった私たちの戦争体験を1人の母親が語る事実として子供達に伝えていきたい。

前回観劇された方からの感想

…演じている役のパワーに圧倒されました。難しい役どころだったと思うのですが、細やかな仕草、思いをこめた演じたいと思うオラ、全てに引き込まれました。 男性24歳

…前はほんの一部を昼の光の中で拝見したのですが、今回は夜、最初から最後まで舞台を拝見して、あるときよりも自然を活かしたこの場所と演じる濱崎さんのオラが融合した迫力に息を呑みました。

女性23歳

…強力なパワーとオーラにひきつけられて、世界にすんなり入っていきました。…

男性24歳

出演・濱崎けい子 演劇企画二人の会

とき・7月22日(土)開場：7時開演：7時半開演

参加費・大人：2,000円 子ども：1,000円

(当日はそれぞれ500円増し)

第12回野の花館まつり(4月29日みどりの日)



フォークダンスなど多彩な舞台が行われた野の花館まつり

高鍋町北高鍋の特定非営利活動法人(NPO法人)「野の花館」で四月二十九日、第二回野の花館まつりがあった。「子どもに夢を、心ときめく出会いを」をテーマに、「春を食べる会」やステージなどがあり、多くの家族連れが春の一日を楽しんだ。「春を食べる会」は、同館の敷地内や周辺で子どもたちが採ったヨモギやオドリコンウ、アシタバなどのてんぷらや白あんを、音響に合わせて笑顔でステップを刻んでいた。このほか、高鍋町の演劇企画「二人の会」主宰の演劇はいきよさんによる「おはなしのてんぷら」もあった。

踊って食べて 高鍋の春満喫

野の花館まつりにぎわう

う間に大きな人気ぶりだった。ステージでは多彩な舞台に子どもたちの歌声が上がった。人形劇やパネルシアター、迫力のある和太鼓演奏を披露、フォークダンスでは家族連れや出演者も踊りの輪に加わり、高鍋フォークダンス愛好会のメンバーと一緒に、音響に合わせて笑顔でステップを刻んでいた。このほか、高鍋町の演劇企画「二人の会」主宰の演劇はいきよさんによる「おはなしのてんぷら」もあった。



(みててね)人形劇団おやま

(和太鼓演奏) 鼓遊太鼓



(パントマイム) マイム・トイ・ボックス



(ライブ) グリーンハートクラブ



まつりに参加して・・・

矢野やす子

「野の花館まつり」の実行委員会にかかわり、委員会の集まりを楽しみにあまり真面目でなく参加してきて、さて、当日。とりあえずエプロン片手にのんびりと現場到着。

館の庭では、こども達があそびまわり、おとなたちは会場前の準備でおおわらわ。なつかしい顔ばかりで、心も和む。さあ、がんばろうかなとエプロンをかける。

さて、お弁当の準備を割り当てられて、徐々にやる気がみなぎってくる。もう、弁当箱には、煮しめ・バラ寿司・白和えが詰めてある。バラ寿司には、錦糸卵、わらびが添えてあり、アア、もうこれだけで参加した意義は十分マンキツ。大きなざるには、踊子草（ほら！そこに咲いてるでしょ！）、イタドリ、ヨモギなど野の草が山のようにきれいに洗ってある。カラッと揚がっていく天ぷらを味見しないではいられない。オイシイー！受付で、お弁当はどんどん売れていく。そんな中で、あちこちで昼食会も始まり、館の内外では人形劇、パントマイム、フォークダンスとプログラムは進んでいく。手伝いの方達も材料の残り物など工夫しながら数種類の料理をテーブルにならべて、なつかしい人たちと、談笑しながら昼食をいただく。天気が良くてとっても気持ちイイ！

そろそろ館の中では、「浜崎けい子」とおはなしのつどいの準備ができる。浜崎さんの素敵な舞台演出、期待が高まる。延岡から田部さんの軽妙なおはなし、「おばあちゃんの読み聞かせ会」の方々の個性豊かな語り部の域に引き込まれていく。きっと演じる方も楽しんでいらっしやるかも！ちょっとうらやましい。

浜崎さんの「河童（がらっぱ）」が、始まる。朗読劇と云うのでしょうか？今思い出しても、浜崎さんその人の姿よりも登場人物が、頭を過ぎる。これが、浜崎さんの醍醐味でしょうか。

この「野の花館まつり」子供のため大人のためと云うより、それらが一体となって時間が流れていったような印象が残ります。きっとこの「野の花館」という「やかた」がかもしだす「ふしぎ」なのかもしれません。

舞台いろいろ・・・

松丸まき子

元々、演劇音痴の私がこのコーナーで云々する事自体当を得ないことと心得ますがお許しいたきます。さて当日は有難くも好天に恵まれ野外の席でゆっくりと拝見拝聴とは言うものの町唯一の文化的催し物に接することができるこの場が少し閑散の趣、残念な想いでした。少し遅れての到着でしたのでプログラムも進行、華やかであったであろうフォークダンスは終わった後でパントマイムの始まり、かつてテレビでヨネヤマママコなる踊り手が名実共に確かな演技で人々を魅了したものでしたが、身一つで様々な人間模様を表現して観る側をその世界に誘うという、これはかなりの演技力がなければかなわぬ事ながら今回の川越慶子さんのそれは鍛えられた容姿と無駄の無い適切な動きで得心させられ充分楽しませていただきました。次の音楽トリオ3名による演奏、各々の声量、音質共に上々、身近な曲目も親しみ易く演者と一体感を以って調和させて頂きました。この時間帯とてもほほえましい父と子の姿が私の心をとらえてくれました。ぶたいのすぐ下のシートの上で小さな男の子がお父さんのあぐらの中に納まっておとなしく周りの雰囲気馴染んでいるのがほのぼのと温かくうれしい光景でした。後で則松さんに伝えたところ、ああ、あれはうちの親戚のものでと・・・さすが！場を室内に移して（語りの世界）長年の修練の賜、田部さんの説得力ある話術・これは1つの芸の域と拝聴、高鍋町の読み聞かせグループも日頃の活動の一端を披露してくださり大変参考になりました。物語を暗証して皆さんの前に立たれるだけでも緊張物でしょう。欲を申せば今少しメリハリを利かせて頂けたら物語がもっとドラマチックに訴えられたかと思われました。



濱崎さんの出演はこれは言うまでもなくプロの世界。

常々野の花館の催し物にはご多忙の間をさいてご参加くださる川原一之さんの日頃の厳しいご活動の中お仕事を中心のバン格拉ヂッシュの状況とはちがった野外劇場の空気をゆっくりとリラックスして味わっていらっしやるであろうお姿が又印象的でありました。

田部さんの語り

第7期(2006年度)通常総会(5月14日)終わる…

代表挨拶

最初からいきなり言い訳のような話ですが、野の花館の代表理事になったにもかかわらず、行事に十分参加できませんでした。申し訳なく思っています。この半年ほどというもの、残業や出張で、家を空けている時間が長い状態でした。

「格差の時代」などといわれます。

景気は回復しつつあると言われますが、あまり実感が無く、しかし仕事のあり方は以前とは変わっています。

職の無い人が多くある一方、職に就いている人には多くの仕事が背負わされる状態です。

お父さんが家にいない、という状態は、相変わらずです。

父親の育児参加への意識は少しずつ高まりつつあると思うのですが、なかなかそれが実行しにくい社会情勢です。

まあ、つまり私自身が、そういう状態であるので、言い訳のような話ですが…。

そういう大きな社会のあり方を、野の花館が変えるようなことはできないと思いますが、お父さんも一緒に、家族でホッと一息付ける時間が作れる空間…そういうところであることができればと思います。



第7期 通常総会議事録より抜粋

1. 日時及び場所；2006年5月14日 自14時00分 至15時15分 於 野の花館居間
2. 出席者等； 運営会員総数 40名 出席者及び出席扱い者 24名(内書面表決状提出者8名)
出席者名(50音順)；伊藤心平、伊藤美穂子、岡田幸子、金丸智子、川原一之、隈元三枝子、黒木至美、黒木淑子、田村直美、永野 寛、則松和恵、則松節男、濱崎恵子、日野原義文、藤田規子、吉川和恵
3. 開会；司会 則松和恵
 - 3-1. 本日の総会出席者 15名、書面表決状提出者 8名(全て議長及び特定する運営会員に全権委任)、議決参加者合計 24名で定款(第23条定足数、第25条書面表決等)に規定する運営会員総数の2分の1以上の出席及び出席と見なす数を確保できたので総会が成立し開会を宣言した。
4. 議長、書記、議事録署名人の選出
 - 4-1. 議長選出 議長に日野原義文氏を選出した。
 - 4-2. 書記、議事録署名人の選出 書記に吉川和恵、議事録署名人に黒木淑子、則松節男を選出した。議長等選出により、これ以降議長により総会運営が行われた。
5. 審議承認・議決事項
 - 議案1. 平成17年度事業報告書及び収支決算報告書等の報告と承認について
事務局より資料(平成17年度事業報告書、資料1・2・3)により報告、全員の承認を得た。
 - 議案2. 平成18年度事業計画書及び収支予算書について
事務局より資料(平成18年度事業計画書、資料4・5)により報告、全員の承認を得た。
(以下決議事項については別紙参照)

野の花館は子どもの居場所・・・

今年もみやざきひとつば西部おやこ劇場の春合宿から始まった野の花館！

このような活動が実行しにくくなっているという。

もう最後かもしれない・・・という言葉も聴かれ寂しい気がする。

子供達はすっかりなれて順調に2泊3日を楽しんだようだ。

春合宿 2006.4.1～3

久しぶりに野の花館に来ましたヨ

今年の春合宿は人数が少なく12人という人数でがんばりました。

まあ平和でよかったと思いましたがヨ 夜は大富豪を頑張りました。?!大貧民の確立が多かったです・・・ まあこんなことは置いて、この野の花館がこの後百年以上建ち続けられればよいと思います。これからも頑張ってください!!! 今度高1 石川ともか

毎年恒例の春合宿に今年もまたやって来ました。

今年は初の電車で高鍋駅からココまで来るのに(野生のカン)で歩いて来ました。荷物が重くて何度肩のぬける思いをしたことでしょう...。電車だったのでどこへ行くにも歩きでした。久々にあるいたので足が痛くなりました。日頃運動しない私にとってはけっこうつらくて花見に行った時もみんなであそんでいる中1人でゆっくりとまったりとうごかずぼうかん者をしていました。もう5年連続で来たのでもう来年はいいかな...? 受験生ですからあ end

4月10日より高校3年生の石川はるか

育児だより

かんきつ姉弟

金丸 智子

この春 無事3才と1才を迎えた千夏と朔巳、日に日に姉弟の色を深めている。ちいの使っているものは、全部触りたい朔。おまごセットも絵本も、使ってみたいものばかりで、遊んでいるそばから荒らされる。なので どんどん意地悪姉ちゃん化している。

うちの長男は6年となり、小学校最高学年をどう楽しむのか?今年5月の終わりに運動会があるのだが立候補して、白団団長になってしまった。果たして団を引っ張っていけるのか?優勝のゆくえは?「団長になって優勝を味わってみたい」という彼の願いはかなうのか?全くもってお楽しみどころである。

このごろしみじみ思うのは、子供らが4人して固まっておやつを食べたりしてるのを見ると、兄弟姉妹なんだなあ。ということ。朔もいっちょまえに主張して、既に赤ん坊ではなくなっている。「環境が人を創る」というけれど、正にこういった瞬間の積み重ねが彼らのつながりを太くしているのだね。子だくさんなんてとてもじゃない!なんて前は思っていたけど、いっぱいいるっておもしろいかも。と思えるようになってきた私である。

(しかし小学生とは毎日バトっているのよねえ。もうイヤになる!!)

たまちゃんのまき

大山 磨佐恵

たまよが3才7ヶ月になりました。大山家では3才7ヶ月になって弟も妹もないのはたまよだけ。親はついついつまでもちいさい子のつもりで甘やかしてしまう。でも、まてよ...あの泣き虫だったひろしでさえ弟をしたがえ、ちゃんと兄ちゃんらしくしていたし、わがママ娘と言われた景子だって弟+大きなお腹のお母さんのお手伝いを健気にやっていたっけ...

いつまでも、こんなにわがママ放題させてちゃいかん!と思いつつ、今日も大山家はたまよのわがママにふり回されている!

...そんな大人達を、先日14才になった奈美が冷やかに、そしてするどい厳しい視線でジッと見ている。

事務局日誌より

- 4/1(土) みやざきひとつば西部おやこ劇場 春合宿
~3(月) //
9(日) 井戸端ペンキ塗り(8人)
14(金) 会計監査
15(土) グリーンコープ(育自の会)
21(金) 理事会、4月定例会
29(祝) 第12回野の花館まつり、春を食べる会、
舞台が楽しい!、濱崎けい子とおはなしのつどい
5/14(日) 第7回総会、5月定例会



春合宿

井戸端ペンキ塗り作業実施 4月9日(日)

井戸端にあずまやを建ててもらって1年が過ぎ、やっとペンキ塗り作業が終わりました。
まだ屋根が残っていますが…



野の花館へのご支援感謝します!

興相睦生、野村健一・小由留、高橋裕子、井手泰子、井上清美、菊池和恵、長友君子、
堺 清治、藤田規子、竹下 勇、長友早苗、草開悦子、曾我参作・恭子、藤原慶子、楢原理恵子、勝山袈人、
新城睦子、岩村正清、伊藤ミユキ、里見照子、くげぬま療院、鍼灸施無為、木下昌子、小村三郎、佐藤 亮、
たかやま小児科・高山修二、神野香久子、沼上照夫、人形劇団ののはな・納富俊郎、黒沢康子、山口孝治、
遠田辰芳、西田 守、富山栄子、まついのりこ、薄井坦子、堤 伸子、石川弥生、黒木至美、友成昌亮、岡山 勇、
飯田悦子、池田育子、岩切三代子、岡田いずみ、金谷久代、河原益見、黒木えり子、塩田幸代、竹嶋 寛・道代、
千竈八重子、野田直子、蓮野 勇、前 弘之、松井順子、松丸まき子、宮沢 厚・里美、吉村勝子、人形劇団 D51、
五十嵐陽子、石田利一、大山高司・磨佐恵、川越慶子、川野久美、國生美南子、小森邦子、重永重美、相馬美保、
田部外美、田村光弘・直美、富永千代子、間 妙子、花倉初代、峰 瑞枝、川原一之、金丸 京、平野伊津子
2006年度分会費、寄附金をよせてくださったみなさまです。[順不同、敬称は省略させていただきました]

年度替りに際し、これだけ多くの方々がすぐ会費をお送りくださり本当に有難く思っております。
ずうーっときになっていたんだ!と庭の木を切りに来てくださる方、まつりにはじめてきてくださり、建物と自然な文化活動に
感動してくださる方、地域子ども教室の指導をしながらこの国の行く末を心配する方、本当に沢山の方々に支えられてこの
活動は続けられています。総会の資料を見ていただければお解かりいただけると思いますがこのような活動は本当に地道な
ものです。昨年から大きな助成金は受けていません。何とかこの間に行政からの支援が受けられれば・・・と思ってきま
したがこのような活動は無理なようです。今年は子どもの居場所提供は月2回の文庫開催と教室を何度か出来るぐらいかな…
とかんがえています。事業収入をもう少し頑張りたいと思っています。(花いちもんめ) 観ていらっしやらない方は是非観に来て
ください。宿泊のご相談にのります。お待ちしております。

ご意見ご感想ご質問などお寄せください、 宛先: 特定非営利活動法人 野の花館
〒884-0002 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋 2664 phone & fax: 0983-23-0701